

懐良親王墓外構柵その他整備工事に伴う立会調査

はじめに

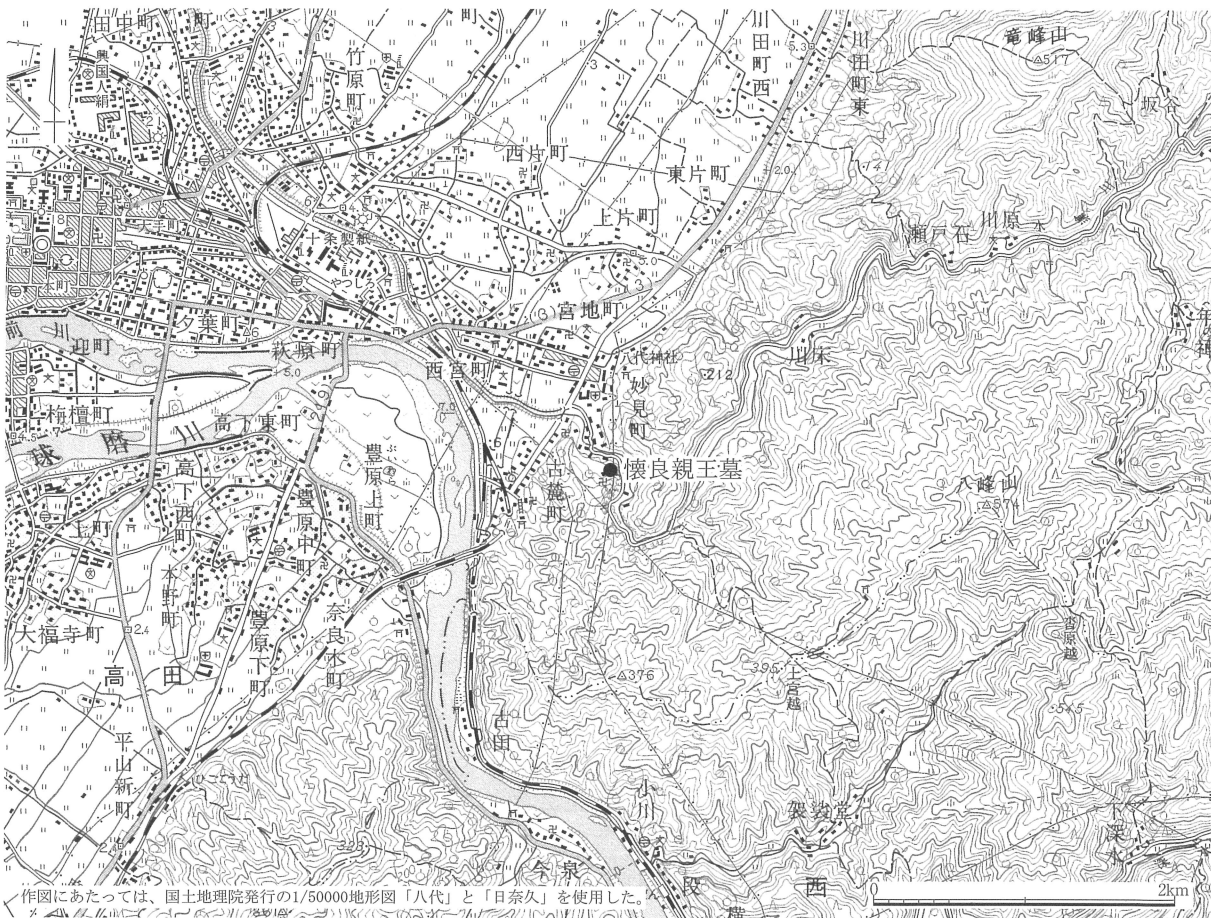
懐良親王墓（以下、「当墓」という）は、熊本県八代市妙見町字中宮に所在する。本報告は、外構柵その他整備工事のなかでも、とくに外構柵基礎（界 34 号途中から界 39 号）と制札基礎の掘削にともなう立会調査にかんするものである。

標記の立会調査は、平成 28 年度に実施した当墓上記箇所掘削の際に、施工地における遺構・遺物の有無を確認することを目的として、陵墓課職員が平成 28 年 7 月 10 日から 16 日までおこなった。（横田真吾）

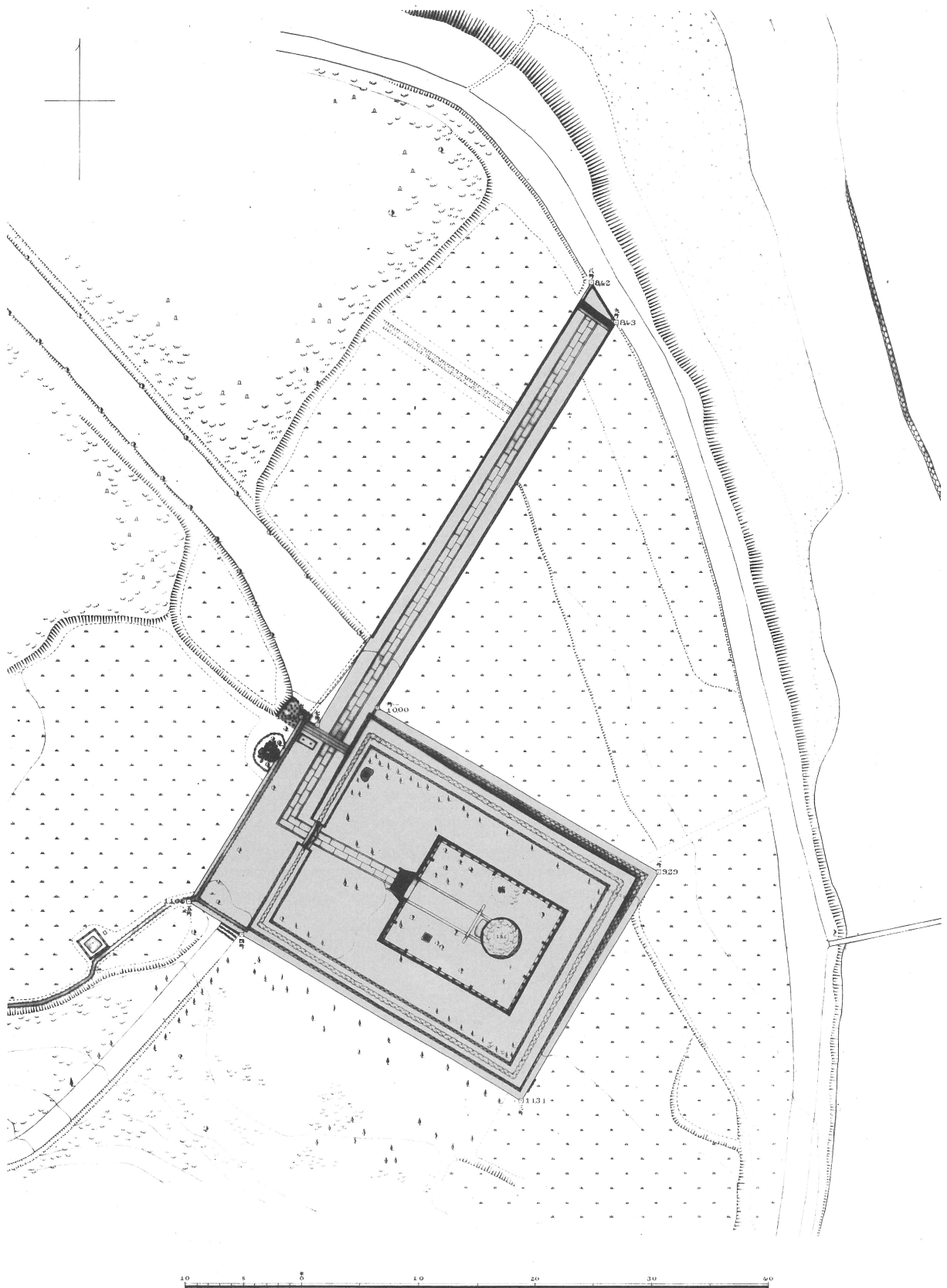
1 既往の調査

当墓は、明治 11 年（1878）4 月 25 日に、悟真寺の旧境内である現在の場所に決定され、旧宮内省の所管となった⁽¹⁾。当初の陵墓地は現在と比べて狭隘なものであったが（第 6 図網掛け部分）、昭和 15 年（1940）頃に始まる征西将軍宮御遺徳顕彰会を主体とした陵墓地の整備事業の結果、現在の形に近い陵墓地が形成された⁽²⁾。標記調査地はこのときに陵墓地へ編入された土地の一部に相当する。

この整備事業の過程で、墓周辺から礎石群・塔心礎や瓦・鉄滓が出土している。これらは、悟真寺の旧伽藍のものかとされる一部礎石を除き、いずれも中世前期に当地に所在した護神寺と関連する遺構・遺物であると推定されている。同寺は、妙見中宮の神宮寺として 12 世紀に創建されたと伝えられる寺院で、南北朝期に後継寺院である悟真寺が創建されるまで存在していたとされる⁽³⁾。（的場匠平）

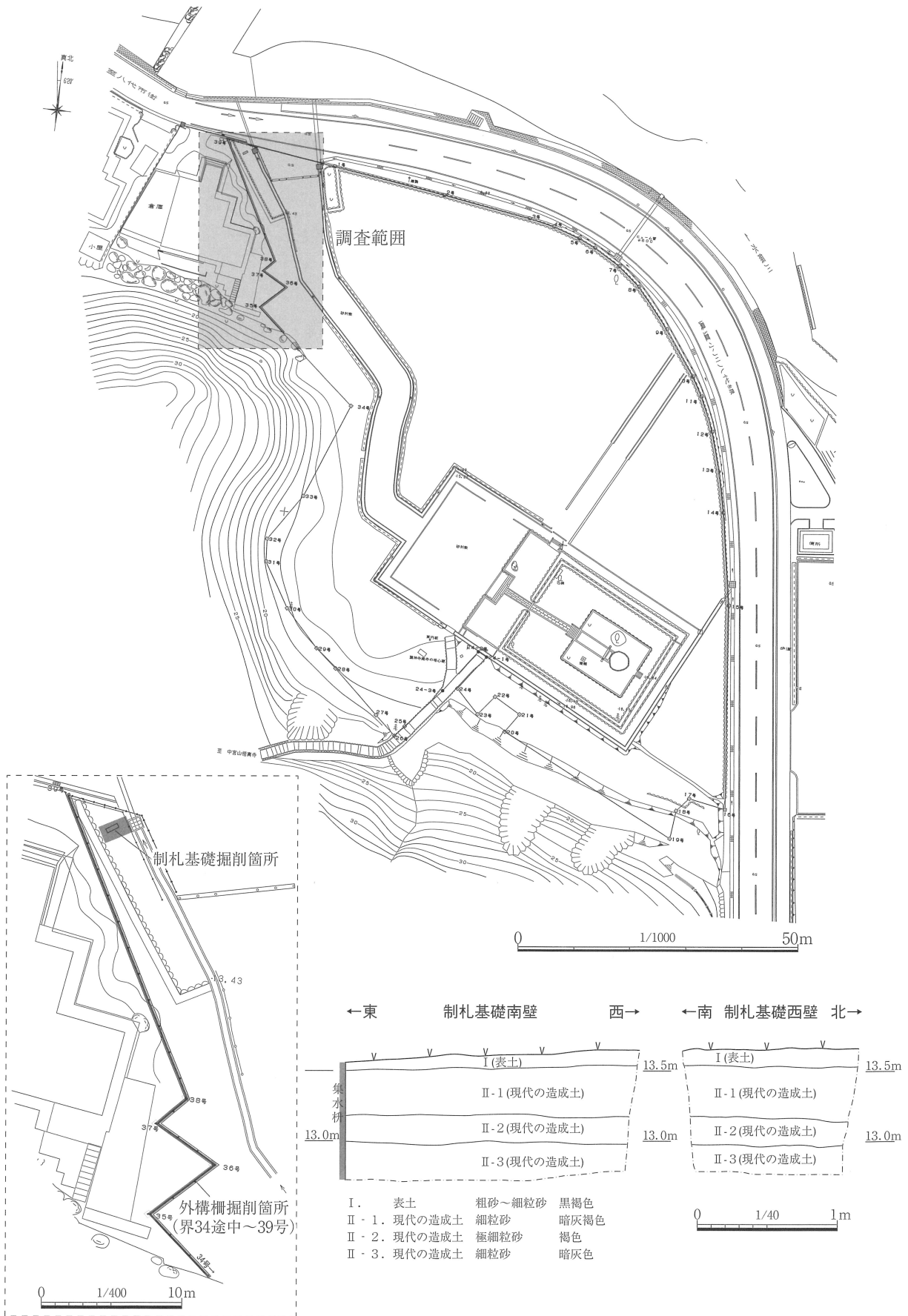


第 5 図 懐良親王墓 位置図 (1/50,000)



陵墓地形図を一部改変。網掛け部分が陵墓地。

第6図 懐良親王墓 昭和2年測量陵墓地形図 (1/500)



第7図 懐良親王墓 調査地位図 (1/1,000)・調査地拡大図 (1/400)・土層断面図 (1/40)

2 調査の状況

土層 立会調査地点における土層は、表土（Ⅰ）、現代の造成土（Ⅱ）が確認された。今回の調査において、Ⅱ層からはビニール等が出土しており、明らかに現代の土であった。地山は掘削箇所では確認できなかったが、外構柵基礎掘削における支柱杭の下部が一部地山の可能性はある。

制札基礎部分 制札屋形設置箇所において、長さ約 2.1 m、幅約 1.3 m、深さ約 0.9 m の掘削をおこなった。遺構・遺物は検出されなかった。

外構柵基礎部分 外構柵設置箇所（界 34 号途中から界 39 号）において、長さ約 43.8 m、幅約 0.2 から 0.3 m、深さ約 0.1 から 0.5 m の掘削をおこなった。遺構・遺物は検出されなかった。 （横田）

まとめ

今回の立会調査は、護神検出寺廃寺の範囲であることをふまえ、遺構・遺物の出土に注意した。しかし、調査の結果、遺構・遺物ともに検出されなかったため、整備工事は予定どおり施工した。 （横田・的場）

註

(1) 『後醍醐天皇皇子懷良親王墓決定書』（宮内公文書館所蔵、識別番号：40279）。

(2) 諸陵寮『工事録』昭和 17 年（宮内公文書館所蔵、識別番号：8739）第 4 号。

(3) 以上、整備事業の過程で出土した遺構・遺物や、護神寺の沿革については、下記文献を参照。

江上敏勝「熊本県八代地方における古代中世の寺院跡」『歴史考古』第 15 号、1967 年。

同上「熊本県八代市宮地地方に分布する平安時代寺院跡と出土瓦の概要について」『夜豆志呂』31 号、1973 年。

同上「熊本県八代地方に見られる塔心礎について」『夜豆志呂』52 号、1979 年。

同上「熊本県八代市妙見町中宮山護神寺塔心礎の意義について—平安時代の三重塔 2 重孔式心礎—」『夜豆志呂』87 号、1987 年。

同上「熊本県八代市妙見中宮跡出土の瓦塔及び塔心礎等について」『九州上代文化論集』乙益重隆先生古稀記念論文集刊行会、1990 年。

蓑田田鶴男『八代市史』第 2 巻、八代市教育委員会、1970 年。



1 調査地 遠景（北から）



2 制札基礎 南壁（北から）



3 制札基礎 西壁（東から）



4 外構柵掘削箇所（北東から）



5 外構柵掘削箇所（南から）